

ICLSについて

公立富岡総合病院

看護副部長 上野美紀



「ICLS」とは「Immediate Cardiac Life Support」の頭文字を取った略語です。

一般の方には聞きなれない言葉ですが、簡単に言うと、「突然の心臓が停止した人に出会ったら、どのように対処すべきか」という医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。

緊急性の高い病態のうち、特に「突然の心停止（心臓が停止していること）に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。心停止直後の処置には、あらゆる医療者がチームの一員として参加し、蘇生を行うことが求められています。

まさに「Immediate（すぐに、間髪をおかない）」な処置が必要となるのです。

心停止はどの医療機関のどの部署においても起こりうるもので、いったん発生すれば蘇生を開始するまで少しの猶予もありません。

そこで、ICLSでは講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースになっています。受講者は少人数（5名程度）のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。

あらゆる医療職が一同となって、共通の内容を学ぶというコースデザインが受け容れられた結果、現在では地域におけるチーム救急医療教育の重要な担い手となっています。

当院でもこのようなトレーニングを2008年から開始し、受講生総数（院内外）125名となりました。西毛地区唯一の急性期病院であり、また地域中核病院としての使命を果たせるよう、近隣の病院職員の方や消防職員の方々のご協力を頂き、何があっても大丈夫と信頼される病院となれるよう日々取り組んでいます。

医療職ではない一般の方は、一次救命処置の講習会をぜひ受講され、心肺蘇生（心臓マッサージと人工呼吸）法とAED（自動体外式除細動器）の使用法を身につけてみてはいかがでしょうか。一次救命処置の講習会については、お近くの消防署、日本赤十字社、救急指定病院等にお問い合わせ下さい。

